

スーパーマーケット販売統計調査資料

2022年5月実績 速報版(パネル270)

4月実績 確報版(パネル270)

(2022年6月21日公表)

調査資料概要

【パネル270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
	一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具			
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2022年6月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2022年5月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	98,146,124	100.0%	97.9%	96.8%
食品合計	89,513,089	91.2%	97.8%	96.4%
生鮮3部門合計	33,785,497	34.4%	97.1%	95.6%
青果	13,768,285	14.0%	99.5%	98.2%
水産	8,410,831	8.6%	95.1%	93.6%
畜産	11,606,381	11.8%	95.8%	94.3%
惣菜	10,221,398	10.4%	102.7%	101.0%
日配	19,616,324	20.0%	98.0%	97.0%
一般食品	25,889,870	26.4%	96.6%	95.4%
非食品	6,638,987	6.8%	99.3%	99.3%
その他	1,994,100	2.0%	99.4%	94.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,381,514	43	99.3%	98.3%
関東地方	35,900,013	73	96.0%	94.6%
中部地方	12,021,783	53	100.1%	98.7%
近畿地方	21,856,020	44	96.6%	95.9%
中国・四国地方	9,953,683	34	99.9%	98.0%
九州・沖縄地方	5,033,111	23	102.7%	102.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	626,628	45	96.6%	96.6%
4~10店舗	4,430,363	83	94.3%	93.7%
11~25店舗	8,784,790	51	99.0%	97.9%
26~50店舗	18,345,505	47	99.0%	97.0%
51店舗以上	65,958,838	44	97.6%	96.7%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	96,199,044
総店舗数 (店舗)	8,334	店舗平均月商 (万円)	11,777
総売場面積 (㎡)	13,759,273	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.1

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2022年6月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2022年4月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	94,843,416	100.0%	100.1%	98.7%
食品合計	86,672,931	91.4%	100.1%	98.7%
生鮮3部門合計	32,611,319	34.4%	99.6%	98.1%
青果	13,429,313	14.2%	102.0%	100.7%
水産	8,124,480	8.6%	97.7%	96.1%
畜産	11,057,526	11.7%	98.2%	96.6%
惣菜	10,227,139	10.8%	104.4%	102.7%
日配	18,990,842	20.0%	100.2%	98.8%
一般食品	24,843,630	26.2%	99.1%	97.9%
非食品	6,120,487	6.5%	98.5%	97.9%
その他	2,050,045	2.2%	93.4%	94.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,976,613	43	101.5%	100.6%
関東地方	34,522,802	73	99.4%	97.6%
中部地方	11,545,968	53	102.0%	100.2%
近畿地方	21,341,437	44	97.8%	96.9%
中国・四国地方	9,555,331	34	102.5%	100.5%
九州・沖縄地方	4,901,265	23	104.2%	104.3%

保有店舗数別集計

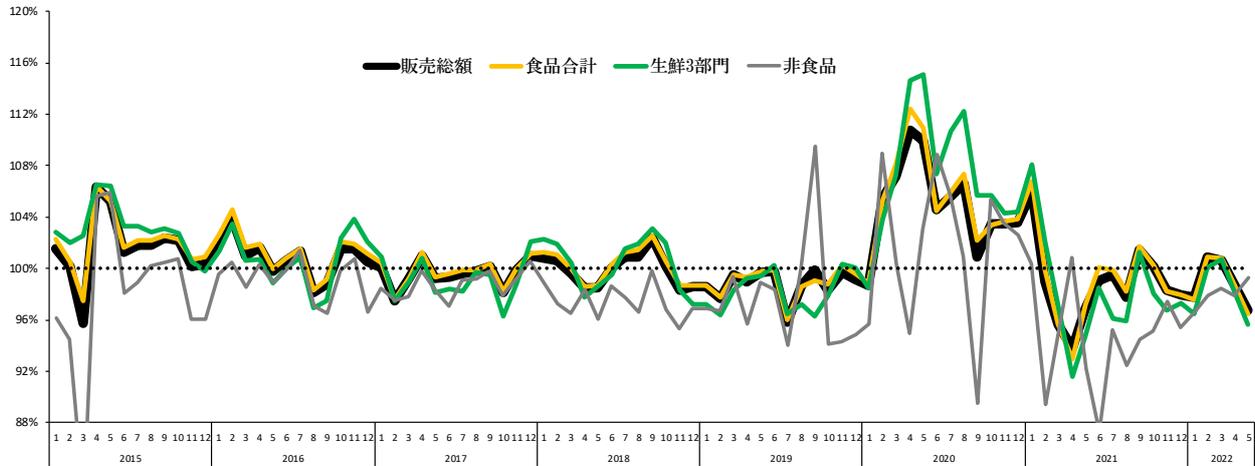
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	616,331	46	98.3%	98.0%
4~10店舗	4,267,417	82	95.6%	95.7%
11~25店舗	8,324,033	51	99.3%	98.2%
26~50店舗	17,703,102	47	101.3%	99.0%
51店舗以上	63,932,533	44	100.1%	98.8%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	92,911,748	
総店舗数 (店舗)	8,325	店舗平均月商 (万円)	11,393	
総売場面積 (㎡)	13,803,946	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.9	

※売上高は税抜金額

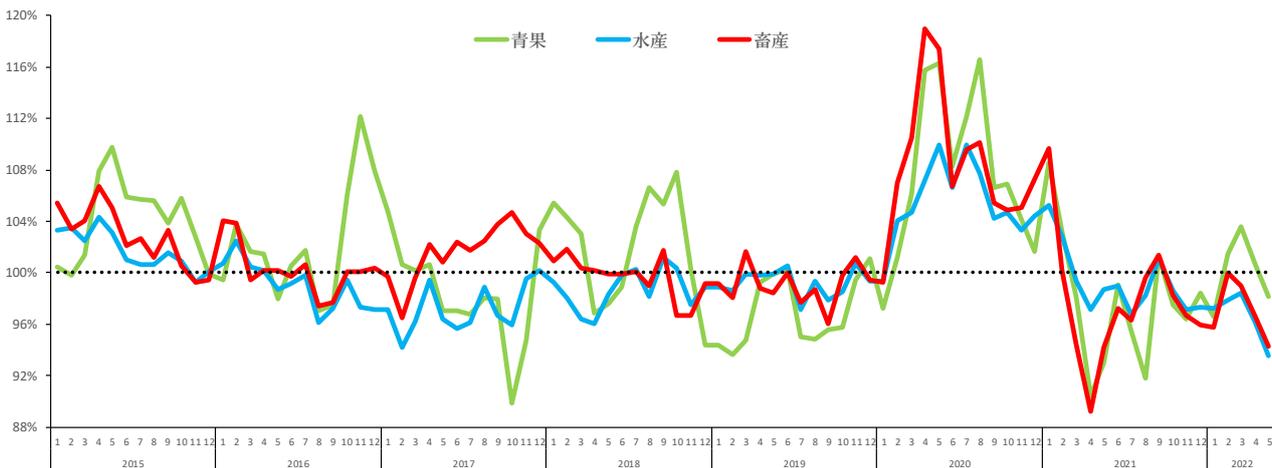
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比(既存店)推移 2015年1月～

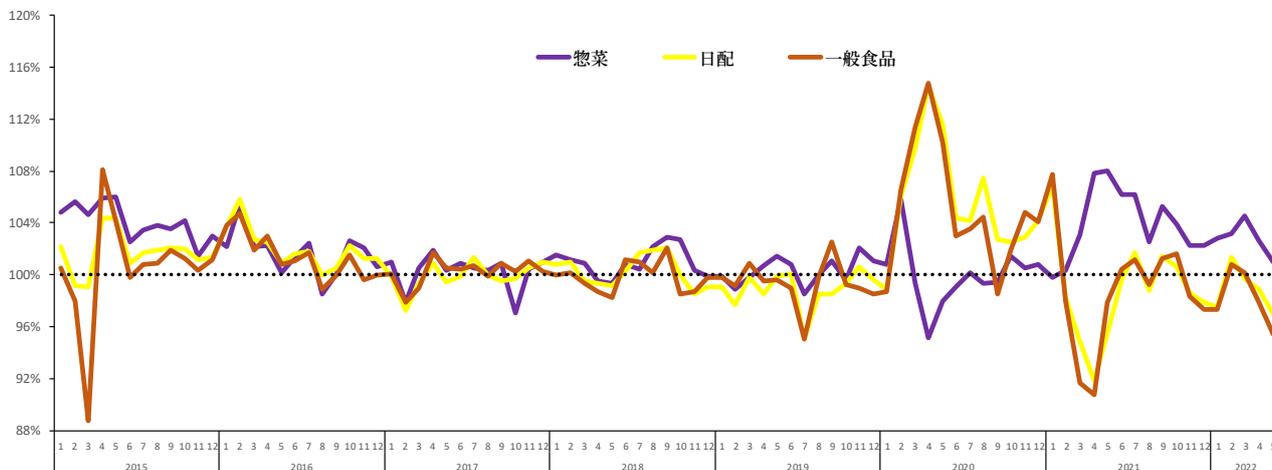
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2022年5月実績は速報版

2022年5月エリア別気候状況

5月の気温：北日本で高かった一方、沖縄・奄美で低かった

上旬：東・西日本と沖縄・奄美で低く、北日本で平年並だった。

中旬：北日本でかなり高く、沖縄・奄美で低かった。東・西日本で平年並だった。

下旬：北・東・西日本で高かった。沖縄・奄美では平年並だった。□

2021年5月との比較：中旬は東日本太平洋側と西日本で低く、下旬は全国的に高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2022年5月			2021年5月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	0.3	2.1	1.2	-0.1	1.5	-0.6	0.4	0.6	1.8
太平洋側	0.6	2.0	1.1	0.7	1.2	0.3	-0.1	0.8	0.8
東日本 日本海側	-1.1	1.0	1.7	-0.2	1.3	-0.7	-0.9	-0.3	2.4
太平洋側	-1.0	0.2	1.0	-0.1	1.3	0.3	-0.9	-1.1	0.7
西日本 日本海側	-0.4	0.2	1.5	-0.6	1.7	-0.4	0.2	-1.5	1.9
太平洋側	-0.8	-0.4	0.8	-1.0	1.7	-0.5	0.2	-2.1	1.3
沖縄・奄美	-0.7	-1.3	-0.3	0.6	2.9	1.5	-1.3	-4.2	-1.8

平年差



前年差



5月の日照時間：東日本日本海側でかなり多かった一方、沖縄・奄美でかなり少なかった

上旬：東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側、北・東・西日本太平洋側で多かった。

中旬：西日本太平洋側でかなり少なく、東・西日本日本海側と東日本太平洋側で少なかった。一方、北日本日本海側と北日本太平洋側で多かった。

下旬：東日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側と東・西日本太平洋側で多かった。□

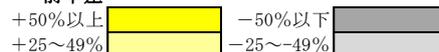
2021年5月との比較：沖縄・奄美を除き、全国的に多くなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2022年5月			2021年5月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	129	120	96	84	111	44	45	9	52
太平洋側	137	115	99	104	96	70	33	19	29
東日本 日本海側	148	76	133	90	78	78	58	-2	55
太平洋側	120	65	119	115	47	89	5	18	30
西日本 日本海側	132	73	127	109	32	101	23	41	26
太平洋側	117	54	112	112	28	91	5	26	21
沖縄・奄美	49	35	63	106	158	88	-57	-123	-25

平年差



前年差



5月の降水量：西日本日本海側でかなり少なかった一方、沖縄・奄美でかなり多かった

上旬：沖縄・奄美でかなり多かった。一方、西日本日本海側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった。

中旬：沖縄・奄美でかなり多く、東・西日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり少なかった。

下旬：北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり多く、東日本日本海側と北・東日本太平洋側で多かった。一方、西日本日本海側で少なかった。□

2021年5月との比較：西日本は月を通じて少なく、北日本や東日本日本海側では上旬と中旬でかなり少なくなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2022年5月			2021年5月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	98	41	174	73	175	165	25	-134	9
太平洋側	68	31	171	56	102	146	12	-71	25
東日本 日本海側	59	68	146	111	182	160	-52	-114	-14
太平洋側	61	144	131	69	106	154	-8	38	-23
西日本 日本海側	6	62	48	81	292	140	-75	-230	-92
太平洋側	30	137	75	76	263	162	-46	-126	-87
沖縄・奄美	186	393	259	94	15	113	92	378	146

平年差



前年差



スーパーマーケット景気動向調査

2022年6月調査結果（5月実績）
（2022年6月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに悪化

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-3.0の38.8、見通し判断は前月から-1.9の34.7となり、現状判断、見通し判断とも前月から悪化した。

経営動向調査では、内食需要の低下や価格上昇等による販売点数の減少を受け、売上高DI、収益DIともにマイナス幅は二桁となった。一方で、生鮮品仕入原価DI、原料価格等の高騰による食品仕入原価DIは、調査開始以来最高水準で推移しており、販売価格は高止まりが続いている。一方で、客単価DIはプラスを維持しているものの、伸び悩みをみせた。昨年是一部地域で緊急事態宣言が出ていたゴールデンウィーク期間を中心に人流変化の影響がみられ、来客数DIは抑えられた状況が続いている。

カテゴリー動向調査では、前年に比べ内食需要が低下した影響で、すべてのカテゴリーにおいて、前月に比べマイナスとなっており、特にこれまで内食需要を支えてきたカテゴリーで影響が大きかった。一方で、行楽や行事需要の回復もあって、惣菜DIは10.9と唯一プラスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、すべてのDIが前月より悪化しており、特に現状判断での悪化幅が大きくなった。（長期傾向についてはP11参照）

行動制限のない今年は、全般的に前年の反動が大きい月となった。また、値上げや生鮮価格の高騰も続いており、販売点数の減少を指摘するコメントも多くみられた。GW期間に帰省や観光に出掛けた消費者も多く、都市部の住宅地立地店舗などで影響が大きかった。

長期化する物価高騰は、消費者生活全般にまで波及しつつあり、今後予想される生活防衛意識の高まりは、家庭内食事需要の再拡大につながる可能性もある。そのためにも、食品消費に限定せず家計消費の全体動向を捉え、消費者心理を的確に把握し、そこにアプローチすることが重要となるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：38.8 (-3.0)
前月：41.8

消費者購買意欲DI
当月：38.8 (-3.4)
前月：42.2

周辺地域 競合状況DI
当月：41.3 (-1.9)
前月：43.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：41.5 (-2.5)
前月：44.0

見通し判断

景気判断DI
当月：34.7 (-1.9)
前月：36.6

消費者購買意欲DI
当月：35.8 (-1.4)
前月：37.2

周辺地域 競合状況DI
当月：40.9 (-0.6)
前月：41.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：40.0 (-1.9)
前月：41.9

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-12.5 (-6.7)
前月：-5.8

客単価DI
当月：1.9 (-8.4)
前月：10.3

来客数DI
当月：-15.2 (+1.6)
前月：-16.8

収益DI
当月：-14.9 (-10.6)
前月：-4.3

販売価格DI
当月：17.6 (-0.7)
前月：18.3

生鮮品仕入原価DI
当月：19.3 (+0.1)
前月：19.2

食品仕入原価DI
当月：20.9 (0.0)
前月：20.9

カテゴリー動向

青果DI
当月：-5.7 (-7.0)
前月：1.3

水産DI
当月：-19.0 (-7.4)
前月：-11.6

畜産DI
当月：-19.2 (-7.3)
前月：-11.9

惣菜DI
当月：10.5 (-2.4)
前月：12.9

日配DI
当月：-10.7 (-6.0)
前月：-4.7

一般食品DI
当月：-14.9 (-6.5)
前月：-8.4

非食品DI
当月：-9.2 (-1.9)
前月：-7.3

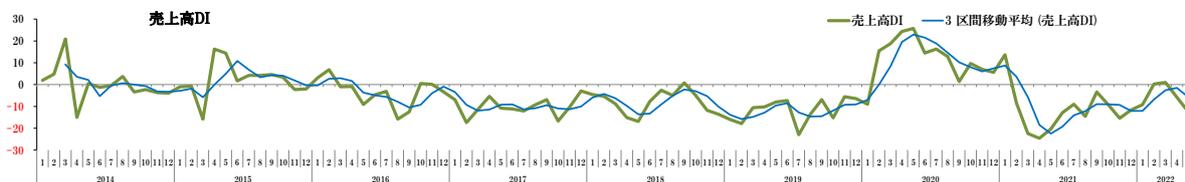
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月大幅に低下し、2か月連続のマイナス

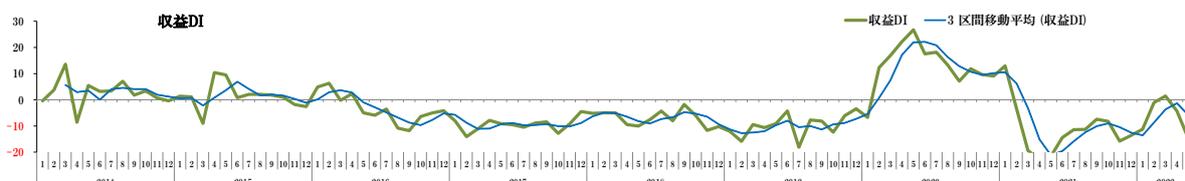
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	9.8	35.3	27.2	23.9	3.8	-5.8
売上高 (当月)	15.1	40.4	25.3	17.8	1.4	-12.5



2. 収益DI

当月大幅に低下し、2か月連続のマイナス

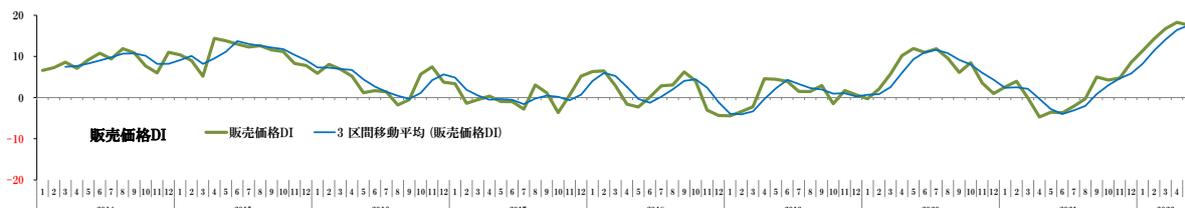
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	8.3	34.4	30.6	19.4	7.2	-4.3
収益 (当月)	16.1	42.7	28.7	9.8	2.8	-14.9



3. 販売価格DI

前月より小幅に低下も、調査開始以来の最高水準で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	2.7	28.4	61.7	7.1	18.3
販売価格 (当月)	0.7	3.4	28.1	60.3	7.5	17.6



4. 客単価DI

プラス幅を大幅に縮小

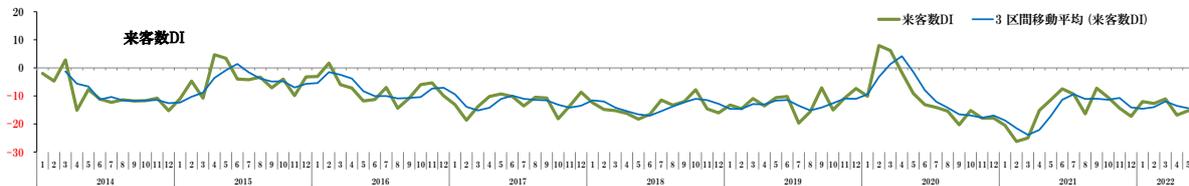
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.0	15.9	30.8	49.5	3.8	10.3
客単価 (当月)	4.1	24.5	35.4	32.0	4.1	1.9



5. 来客数 DI

二桁マイナス圏で推移が続く

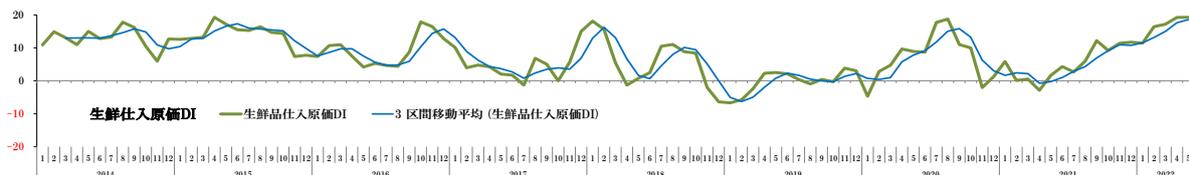
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	15.2	46.7	28.8	8.7	0.5	-16.8
来客数 (当月)	18.5	39.0	28.1	13.7	0.7	-15.2



6. 生鮮仕入原価 DI

二桁プラス圏で高止まり

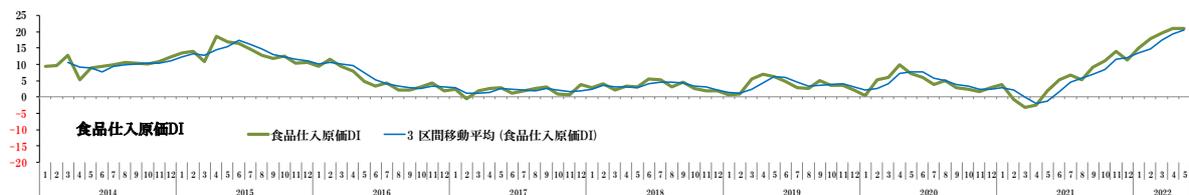
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	4.5	25.8	57.9	11.8	19.2
生鮮仕入原価 (当月)	1.4	4.3	24.3	55.7	14.3	19.3



7. 食品仕入原価 DI

13ヵ月連続プラス値、調査開始以来の最高値水準で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	4.5	19.8	61.0	14.1	20.9
食品仕入原価 (当月)	0.7	5.7	18.4	59.6	15.6	20.9

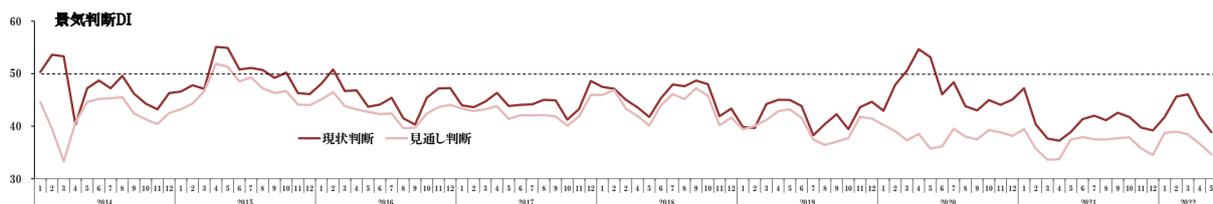


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は2か月連続で悪化、見通し判断も小幅に悪化

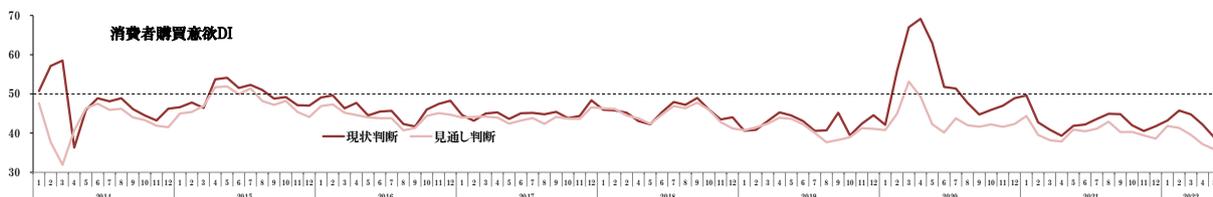
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	3.8	36.2	49.2	10.8	0.0	41.8
【現状】景況判断 (当月)	5.3	41.3	46.0	7.3	0.0	38.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	6.5	47.6	38.9	7.0	0.0	36.6
【見通し】景況判断 (当月)	8.7	48.0	39.3	4.0	0.0	34.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は2か月連続で悪化、見通し判断も小幅に悪化

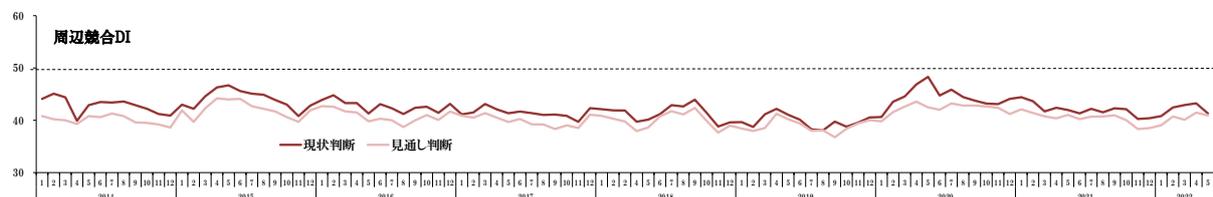
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.7	35.1	53.0	9.2	0.0	42.2
【現状】購買意欲 (当月)	2.7	45.3	46.0	6.0	0.0	38.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	4.3	47.0	44.3	4.3	0.0	37.2
【見通し】購買意欲 (当月)	4.7	51.3	40.0	4.0	0.0	35.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は悪化、見通し判断は小幅に悪化

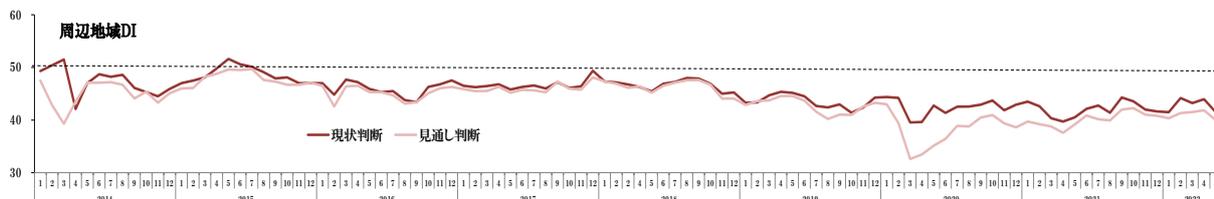
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.2	25.4	69.7	2.7	0.0	43.2
【現状】競合状況 (当月)	4.0	28.7	65.3	2.0	0.0	41.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.9	26.5	66.5	2.2	0.0	41.5
【見通し】競合状況 (当月)	4.7	28.9	64.4	2.0	0.0	40.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は悪化、見通し判断は小幅に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	25.8	69.2	3.8	0.0	44.0
【現状】地域景気 (当月)	2.0	34.7	58.7	4.7	0.0	41.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.8	31.5	61.3	4.4	0.0	41.9
【見通し】地域景気 (当月)	2.7	38.0	56.0	3.3	0.0	40.0

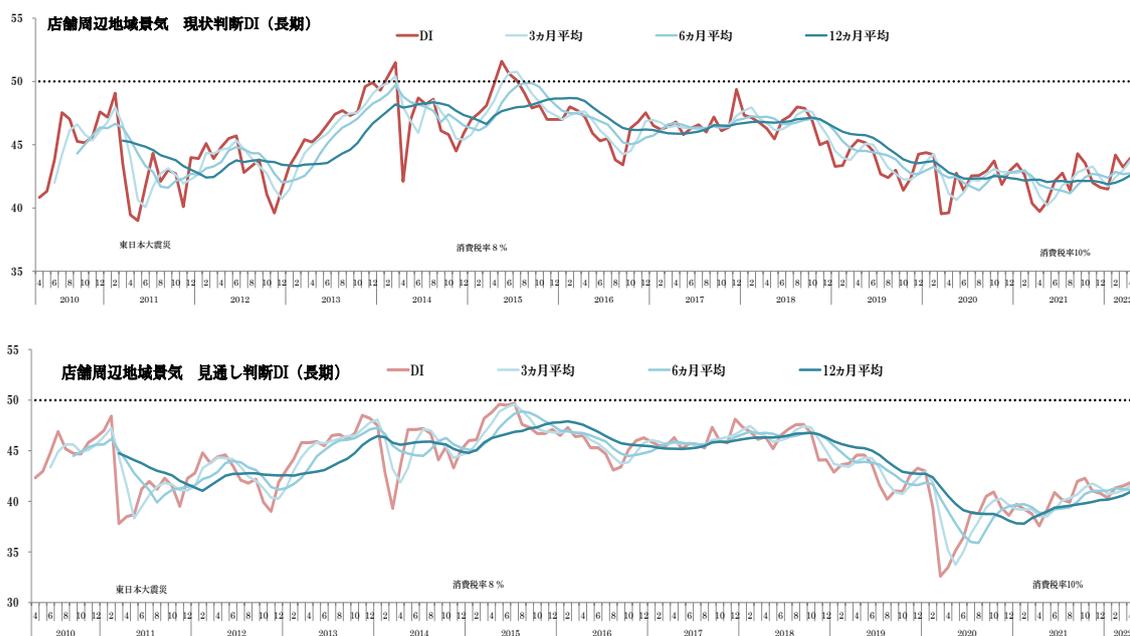


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

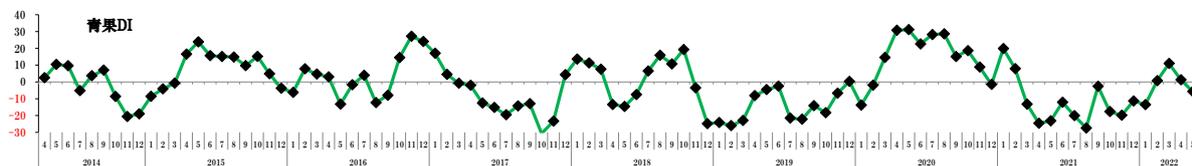
20年2月に大幅に悪化したが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-5.7（やや不調）

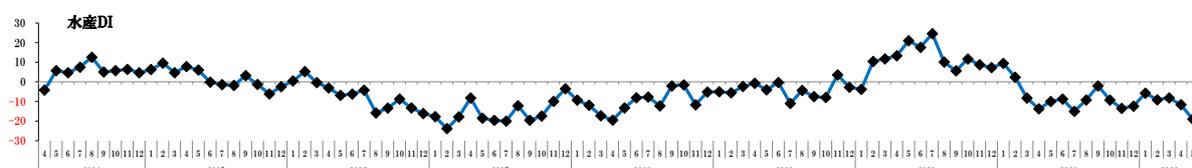
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	4.0	32.6	23.4	34.3	5.7	1.3
青果（当月）	12.1	31.2	27.0	27.0	2.8	-5.7



青果相場が全般的に高値で推移した一方で、前年の緊急事態宣言下との比較で、買上点数は大幅な落ち込みをみせた。販売数量の多いタマネギやじゃがいもをはじめとする土物類、キャベツやレタスなどの葉物の単価上昇により好調。高い気温により、オクラや枝豆などの夏野菜やトマトなどサラダ関連野菜は好調に推移した。果物類は、カットフルーツが好調に推移する一方、国産果物は動きが悪く、円安の影響でオレンジやキウイフルーツなどの輸入果物が高騰しており共に不振となった。

2. 水産DI：-19.0（不調）

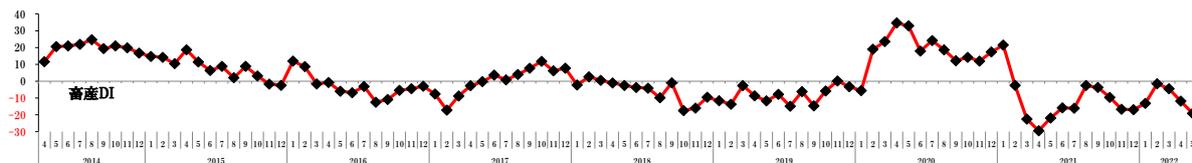
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	11.4	46.0	23.3	16.5	2.8	-11.6
水産（当月）	27.0	38.3	19.1	14.9	0.7	-19.0



緊急事態宣言が発令されていた前年の反動により低迷した。また漁船の燃料費高騰、不安定な生魚の入荷、サーモンなど輸入魚の高騰など、全般的に相場高傾向が続き販売に苦労している。近海魚や地魚の販売を強化している店舗もみられる。刺身類は、ゴールデンウィーク期間の帰省や集まりの再開もあって、好調となった。前年好調であったうなぎ、アサリ産地偽装問題の影響で貝類は不振となった。

3. 畜産DI：-19.2（不調）

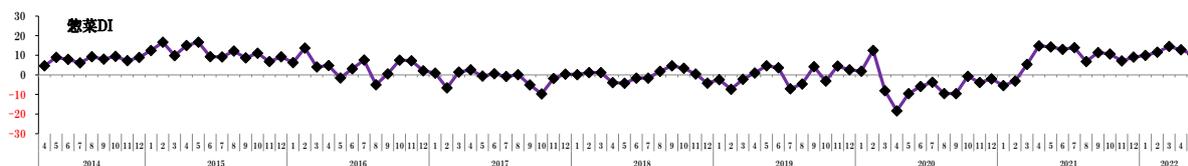
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	14.7	38.4	29.4	14.7	2.8	-11.9
畜産（当月）	22.5	43.0	24.6	8.5	1.4	-19.2



ゴールデンウィーク期間の人流変化による影響を受けた店舗が多かった。肉食需要の落ち着きにより、全般的に買上点数が低迷した。輸入肉の価格上昇が続いており、不振となっている。牛肉は、焼肉、ステーキ用が好調も、アメリカ産牛肉の価格高騰により販促を打ちにくい状況が続いている。比較的価格が安定している国産豚肉や、相場が落ち着いている鶏肉に需要がシフトしているとのコメントが多かった。ハムなどの加工肉は前年に好調だった反動もあり、伸び悩んだ店舗が多い。

4. 惣菜DI：10.5（好調）

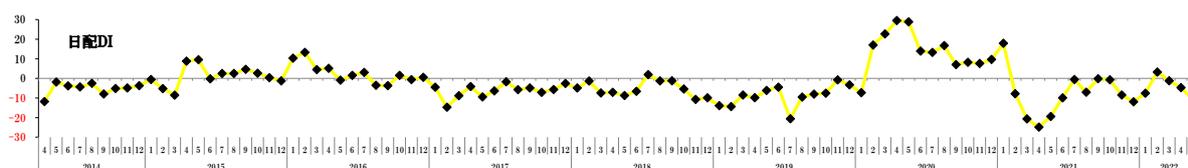
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	1.7	13.1	28.0	46.3	10.9	12.9
惣菜（当月）	4.3	12.1	31.2	42.6	9.9	10.5



ゴールデンウィーク期間中は行楽需要が回復しプラス要因となったが、帰省客が増加した影響には明暗がわかかれ、地方店舗は好調も、都市部住宅地立地の店舗ではマイナス要因となった。行事の再開による予約注文の増加もみられた。米飯類は前年並みだが、焼鳥やつまみ類など家飲み需要は落ち着きがみられた。調理油類の値上げの影響もあってか、唐揚げやコロッケなどの揚げ物類が好調に推移した。気温上昇により、サラダや冷惣菜の動きがよかった。

5. 日配DI：-10.7（不調）

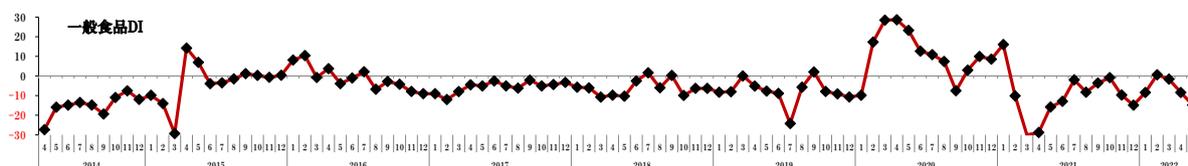
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.3	36.4	31.3	22.2	4.0	-4.7
日配（当月）	12.7	37.3	33.1	14.1	2.8	-10.7



内食需要の低下傾向により、買上点数が低迷した影響を受けた。値上げのあったパン類などは、一品単価が上昇し、好調に推移。冷凍食品は前年並みに好調をキープしている。平年より気温が高く推移した地域を中心にアイスや飲料、ところてんなど涼味商材の動きが良かった。一方で練物や漬物、納豆などの和日配は動きが悪かった。チーズやバターなどの乳製品、機能性ヨーグルトには引き続き前年からの反動減がみられた。

6. 一般食品：-14.9（不調）

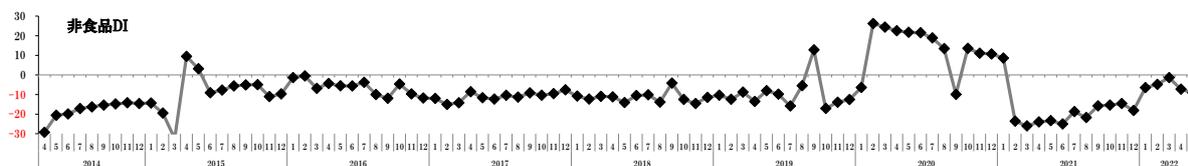
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	10.1	38.2	30.9	16.9	3.9	-8.4
一般食品（当月）	17.5	39.9	30.1	9.8	2.8	-14.9



内食需要の低下に加え、値上げされた商品群が多く、買上点数の減少がみられた。高い気温によりペット飲料やそうめんなどの涼味商材が好調に推移した。菓子類は、比較的好調な店舗が多い。これまで好調だった保存性の高い食品(カップ麺、パスタなどの乾麺類、レトルト類、缶詰など)は、反動減が続いている。米類は相場安と点数で伸び悩みが続く。値上げのあった油や調味料は前年並みで推移した。家飲み需要に落ち着きがみられ、酒類や珍味などのつまみ類は前年比マイナスが多い。販促が打ちにくいなど影響を指摘するコメントもみられた。

7. 非食品 DI：-9.2（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	11.0	34.3	33.1	15.7	5.8	-7.3
非食品（当月）	15.1	34.5	29.5	13.7	7.2	-9.2



マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品は前年より落ち込んだ一方で、紙コップや割り箸などの行楽用品が好調に推移した。外出やオフィスでの勤務が増えた影響か、ティッシュやトイレトペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品、家庭用洗剤などは不振となった。気温の上昇により殺虫剤の動きがよかった。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2022年6月調査（5月実績）キーワードTOP3

1. 行動制限緩和による人流変化と来客数減少
2. 輸入品を中心とした価格高騰
3. 内食需要の低下

（参考）2021年6月調査（5月実績）キーワードTOP3

1. 前年緊急事態宣言下からの反動
2. 青果相場安、精肉相場高
3. 週末を中心に来客数回復

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 150社
 4月実績確報版 185社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp